

## 私立大学図書館協会 2002 年度第 6 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時：2003 年 1 月 31 日（金）14:00～16:30

場 所：東海大学 校友会館

出席者：村山 重治（東海大学）  
中元 誠（早稲田大学）  
加藤 恭輔（中京大学）  
加藤 好郎（委員長 慶應義塾大学）

事務局：保坂 睦（慶應義塾大学）

柳下 俊江（慶應義塾大学）

次年度事務局：秋山 緑（東海大学）

平井 久美子（東海大学）

欠席者：萩原 一良（関西学院大学）

配付資料：

- (1) 国際図書館協力委員会事務局報告（2003. 1. 18～1. 31）
- (2) 2003 年度シンポジウム企画メモ
- (3) 海外集合研修募集通知(案)
- (4) Overseas Assignment Agreement between JASPUL and The Mortenson Center
- (5) 私立大学図書館協会とイリノイ大学モーテンソンセンターとの海外派遣協定
- (6) 2003 年度シンポジウム案資料（加藤委員長案、中元委員案）

報告事項

### 1. 事務局報告

資料 1 に基づき、事務局より報告があった。

#### (1) ホームページ関連

各種議事録等のホームページ掲載、WWW 情報資源提供サービスへの申込を行った。

日本図書館協会からの再問合せ

#### (2) 国際図書館協力基金（資料 1）

1 月 15 日に開催した支援企業報告会の資料を、欠席企業宛に送付済。

#### (3) 寄贈資料搬送事業報告

- ・ 今年度第 1 回目は搬出終了。

審議事項

### 1. 2003 年国際図書館協力シンポジウムについて

前回に引き続き、2003 年度に開催予定のシンポジウム案を検討した。（資料 6 参照）

(1) 加藤委員長案

「大学図書館における学術流通基盤整備と充実：情報の収集と発信体制の確立」

講演者：Research Library Group プレジデント Mr. James Michalko

貴重書等のデジタル化を中心としたアメリカの戦略を主眼に、国内の動きも報告したい。また、2003年度開催予定の海外集合研修につなげることも可能。

(2) 中元委員案

「大学図書館の国際戦略：人の流れを中心に」

講演者：イリノイ大学モーテンソンセンター前所長 Ms. Marianna Tax Choldin

図書館員の国際的活動を考える上で、人的な流れを中心に、アメリカからの新しい切り口、大学図書館なりの切り口を求めたい。また、海外派遣研修の宣伝を兼ねることも可能。

(1)、(2)案に対する意見

- (1)について、情報発信やデジタル化といったテーマは半ば食傷気味ではないか？
- (2)について、モーテンソン・センターの存在を知ってもらうために、集合研修先として設定することも有効であろう。
- (2)について、2003年度の派遣実行後に行った方が良いとも考えられる。
- 開催場所（東海地域）を考えると、(1)の方が多くの参加者を集められるかもしれない。

結論

2003年度は(1)案を採用とし、(1)案に基づいた海外集合研修を開催する。

2004年度は(2)案を採用としたい。

以上の決定を受けて、2003年度シンポジウムの内容につき、具体的に審議した。

<開催日程> 2003年5月16日（金）14:00開始（13:30受付開始）

<パネリスト>

慶應義塾大学・早稲田大学・国立民族学博物館、国立国文学研究所、等を候補とした。必ずしも図書館にこだわる必要はない。

ディスカッションへの出席も含めて3万円の謝礼（交通費込み）とする。

<通訳>

通訳は2名とする。できるだけ図書館プロパーの通訳が望ましい  
委員所属大学から通訳を出すこととしたい。各委員にて検討。

<講演原稿>

メ切、翻訳、印刷（会場校担当）の期間を考慮する必要がある。

翻訳について、過去 3 年は中元委員にお願いしてきたが、今年度についてはどうするべきか。→ 慶應義塾大学図書館情報学科の大学院生に依頼することは可能か。加藤委員長が候補者について検討。

<打合せ会と控え室>

22 名程度収容可能な部屋の予約が必要。

会場校（加藤委員）にて場所確認を行う。（図書館内の部屋を予定）

<懇親会>

場所：エルバ亭（八事キャンパス内）

開催時間：18:00 開始

予定人数：50 名程度？

値段については会場校（加藤委員）が交渉、結果によっては参加費の減少もあり得る。

<当面のスケジュール>

2 月初旬 講演予定者にコンタクト開始、条件等を伝える

（講演時間は 1 時間、質疑応答 30 分）

2 月中 来日スケジュール（5 月 15 日から 17 日）を確定する。

3 月中旬～下旬 講演テーマと内容の決定、開催通知等作成・印刷

\*案内の発送先は例年どおりとする。

4 月 1 日 開催通知発送

4 月 30 日 シンポジウム参加申込み切

4 月中 パネリストへの講演依頼

## 2. 2003 年海外集合研修について（資料 3 参照）

<日程> 2003 年 10 月下旬 5 泊 7 日

RLG との日程調整はシンポジウムの前に行う

<訪問場所> Research Library Group, Stanford University,

HighWire Press, Getty Museum 各 1 日づつを充てる

<参加者資格> 専任職員

<参加者人数> 5 - 7 名

東海大学事務局にておおよその見積を取得し、参加できる人数を割り出す。

案内発送：7 月 20 日

参加申し込み切：9 月 20 日

## 3. 海外派遣研修について（資料 4、5 参照）

イリノイ大学モーテンソンセンターとの海外派遣研修協定（Agreement）について、内容確認を行った。おおむね了解されたため、期間のみ書き加えた形にて、ドラフトとして

イリノイ大学に内容確認を打診したい。

募集の進捗：1月31日時点で1名の申し込みがあった。2月8日の〆切以降に派遣者候補の選定を行い、次回委員会（3月3日）終了後に候補者面接を行う。

1名ずつ30分程度を予定。（委員のみ；事務局は別室で待機）

- \* 面接について、事前に事務局より所属長宛に依頼状を送付しておく。  
（会長校との連名、公印省略）

（懇談事項）

- ・ 搬送事業の寄贈本送付先について（村山委員）：

東海大学の教授が吉林師範大学に赴任した経緯から、日本からの資料受け入れを希望している。2003年度以降の寄贈資料搬送事業募集において、相手先を特定しない搬送希望校が出た場合に、搬送先として検討することが可能である。

- ・ 新事務局の引継ぎについて（事務局）：

2月中旬に慶應義塾大学にて、新事務局（東海大学）への引継ぎを行う予定。

以 上

\* 次回日程

3月3日（月）早稲田大学（海外派遣研修参加希望者の面接を兼ねる）

- ・ 2003年度シンポジウム詳細打合せ、進捗報告 14:00-
- ・ 派遣研修面談 15:30-